

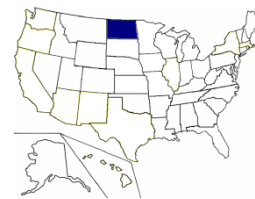
面積: 183,112平方キロ

(日本の本州の約4/5)(全米50州中19位)

人口: 799,358人(2025年国勢調査推計値)(全米47位)
(白人86%, 黒人2%, 米インディアン5%, ヒスパニック5%, アジア2%)(2025年国勢調査推計値)

州都: Bismarck 愛称: Peace Garden State

ノースダコタ州概要



令和8年3月現在
在シカゴ総領事館

政治

【州政治】

- 知事: ケリー・アームストロング (Kelly Armstrong)(共)
2024年12月就任、現在1期目
- 議会構成: 二院制
上院議席数47 民主党 5 共和党 42
下院議席数94 民主党11 共和党 82 空席 1
- 内政状況:

共和党の地盤であり、1964年以降の大統領選挙では全て共和党候補が当選している。州選挙でも圧倒的に共和党が強く、1980年代半ばから2000年を除き州知事を始めとする州の高位公選職はほぼ共和党で占められてきている。2018年選挙では、農村部出身で人気があった民主党連邦上院議員が敗れ、連邦上下両院の全3議席が共和党となった。

知事も共和党が続き、IT企業出身のバーガム知事の後も、ビジネス界出身のアームストロング知事が当選した。

バーガム前知事は2023年6月、2024年大統領選挙への出馬を表明したが、12月に撤退。現在の第2次トランプ政権では、内務長官を務めている。

2024年の連邦議員選挙において、ジュリー・フェドーチャック候補(共)が当選し、同州史上初の女性下院議員が誕生した。(女性上院議員は過去1名)

【連邦政治】

- 大統領選挙人数: 3名
- 2024年大統領選挙における勝利政党: 共和党(得票率約67.0%)
- 連邦上院議員(議席数2名)
ジョン・フーベン(John Hoeven)(共)
ケビン・クレマー(Kevin Cramer)(共)
※本年中間選挙での改選なし。
- 連邦下院議員(議席数1名)
共和党1名

経済

【州経済】

- 主要産業: 鉱業(ガス、石油、石炭)、不動産、製造業(機械、食料)¹
 - 農業: 穀物(小麦等)、ビート¹
- GDP: 819億ドル(2025年)¹
- 1人当たり個人所得: 75,771ドル(2025年)¹
- 失業率: 2.6%(2025年12月)²
- 輸出額: 8,644百万ドル(2025年)³
- 主要輸出品目: 石油・石炭製品、石油・ガス、農産物、一般機械、化学製品³
- 輸出相手国・地域(2025年):
カナダ(80%)、メキシコ(9%)、オーストラリア(2%)、チェコ(1%)、台湾(1%)、ドイツ(1%)、中国(0.4%)、フランス(0.3%)、日本(0.3%)³
- 財政: (2023年度)³
 - 歳入: 10,349百万ドル
 - 歳出: 9,332百万ドル
 - 債務残高: 4,229百万ドル
- 経済状況

冬の厳しい寒さと少雨を活かした春小麦やデュラム小麦の生産が盛んで、その生産量はカンザス州と並び米国を代表する生産州。小麦、砂糖、食肉等の食品加工や農機具等の機械製造が盛ん。近年シェールオイル・ガスの生産が拡大し、原油生産量はテキサス州、ニューメキシコ州に次いで国内第3位⁴。近年、ドローンを利用した産業(データ収集等)も盛ん。

【対日経済】

- 対日輸入額: 36百万ドル(2025年)³
- 主要輸入品目: 一般機械、電子電算機器³
- 対日輸出額: 29百万ドル(2025年)³
- 主要輸出品目: 農産物、輸送用機器、加工食品
- 日系企業の進出状況/雇用数:³
29事業所/425人(2025年)⁵
- 州駐日事務所なし

出典: 1: Bureau of Economic Analysis, 2: Bureau of Labor Statistics, 3: U.S. Census Bureau, 4: Energy Information Administration, 5: Consulate-General of Japan in Chicago

日本との関係

【要人往来】

22年10月、貿易投資ミッションのためバーガム知事訪日。

【文化・広報関係】

日本より若干の学生、研究者がノースダコタ州内の大学に留学しており、特にノースダコタ大学には、パイロット養成プログラムを有する米国屈指の航空学部があり、全日空の支援を得て、東海大学の学生がパイロットの研修を行っている(東海大学はコロナ禍で中止していたノースダコタ大学への留学を2021年4月から再開)。

【日本人学校・補習校数】

なし

【友好都市関係(1)】

2015年11月、栃木県鹿沼市とランドフォークス市との間で友好都市協定を締結(元々1998年に旧粟野町とランドフォークス市が姉妹都市提携を締結。その後、2006年に旧粟野町が鹿沼市と合併した後も現在まで交流が継続。)

現在は学生の相互訪問や外国語指導助手の派遣等が中心。なお、ランドフォークス市「Sertoma Park」内には旧粟野町から寄贈された日本庭園あり。

【国際交流基金日米草の根交流コーディネーター】

薄美加(~2026年7月: プレーンズ美術館派遣)